

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693000099		
法人名	特定非営利活動法人 H&Eグループ		
事業所名	グループホームだいのじ(2F)		
所在地	京都府長岡京市奥海印寺竹ノ下18-1		
自己評価作成日	令和6年2月22日	評価結果市町村受理日	令和6年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通り上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	令和6年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・一日一回は笑い声が出るようにレクリエーションに力を入れている ・一人にしないように職員が声掛けをするようにしている ・食事を楽しんで頂けるように好みのメニューを取り入れるようにしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>2011年開設の当事業所は、理念に沿って、家庭的な雰囲気と本人の個性を生かした支援を実践されています。2階の平均介護度は2.8、1階は3.5で重度化傾向にあり、活動内容も階によりやや異なりますが、「1日1回は全員を笑わせる」という利用者への基本姿勢は一貫しています。コロナ禍以降外出機会は減ったものの、宇治植物園の花見、柳谷観音の紫陽花見物、亀岡コスモス園へのドライブなどを楽しんでいます。また、プランターでの花や野菜の栽培、裏の大きな公園への散歩などで日頃から外に出る機会を増やしています。さらに、食事は手作りにこだわり、利用者で植えた野菜や摘んできた菜花も食卓に上ります。調理の苦手な若い職員をベテランの職員がカバーし、力の要る場面では力持ちの職員が高齢の職員をカバーし、マンダリンの得意な職員は歌の演奏をというように、それぞれの職員の持ち味が生かされています。訪れると、ゆったりとソファに座り、目礼や、握手や、親密な会話で迎えてくれる明るい利用者がいます。また、入所前からの主治医数名の定期的な来診や手厚い医療サポートもあり、利用者の大きな支えとなっています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア会議において実践につなげるように意見交換を行っている	玄関横に介護方針と法人の理念が額入りで掲示されている。理念、「人間としての尊厳を大切にし、家庭的な雰囲気の入居者の個性を生かし、介護支援のある日常生活の支援を行います」の実践状況は、フロア会議で管理者や介護支援専門員が職員に声をかけて振り返る機会としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して交流を持つようにしているが、コロナ感染もあり思うように出来ていない	以前はボランティアの来所や走田神社の祭りへの協賛など多くの交流があったが、現在は慎重になっている。この1月にもインフルエンザやコロナ罹患者が発生している。近くの中学校から花と手紙を頂いている。散歩途中に元自治会役員の方にササゲ(野菜)を頂くなどしている。地域のスーパーに食材を買いに行っている。また、地域の防災マップに広告を出している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献は出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	そのように努めている	会議には長岡京市高齢介護課、地域包括支援センター、家族などが参加している。民生委員は時間が合わず、参加されていない。議事次第と事例報告などを事前に資料配布し、会議で参加者から意見を募っている。参加者からは、インフルエンザやコロナ患者発生下での面会や、重度化すると退所になるのかなどの質問が出ている。議事録は全家族に配布している。	自治会長など、会議の構成メンバーに地域の役員の参加が望まれます。また、資料や議事録には各種行事やヒヤリハット、職員研修などの報告も入れて、事業内容をさらに詳しく開示されては如何でしょうか。家族等の安心感が高まると考えます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当窓口に出向いたり電話での相談を行っている	運営推進会議への参加があり、議事録送付時に次回会議への意見聴取をしている。「おでかけあんしん見守り隊」の探索ネットワーク事業に協力している。福祉事務所と生活保護受給入所者に関する連絡調整をしている。事故報告を市に提出している。	

京都府 グループホームだいのじ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会議において勉強会を行い理解を深める努力をしている	身体拘束虐待防止の指針を作成して、毎月のフロア会議などで拘束事例の検証をしている。言葉、薬などについて話し合っている。帰宅願望が強く時々無断で出ていく方があり、その方には職員が散歩や買い物に誘い、好きな家事や園芸を一緒にすることで、気分転換を図っている。	毎月の会議で身体拘束に関する話し合いを持っています。次年度からは虐待に関する体制整備も必要になりますので、独立したファイルに身体拘束関連の委員会・研修報告を纏め、すぐに確認できるように整理されるようお勧めします。また、普段何気なく使用しているセンサーや食事エプロンなどの位置づけにも焦点を当て、多くの気づきを得られるよう期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア会議において勉強会を行い防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用している方もおり意識して学ぶようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	そのように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において意見・要望を伝えていただくようにしている	意見箱は置いていないが、家族とは電話や面会時に連絡を取っている。運営推進会議議事録送付時に意見用紙を添え、家族の意見を聞いている。新型コロナやインフルエンザの蔓延時に面会の問い合わせがあり、その時は待ってもらった。地域障がい者交流フロア「こらさ」への送迎希望があり、送迎をしている。家族から以前おこなっていた写経の希望があり試みたが、本人は乗り気ではなかった。料金支払い方法の変更希望があり、対応している。	

京都府 グループホームだいのじ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のフロア会議において意見を聞く機会を設けている	個別の定期面談はしていないが、日頃から意見が言いやすく、勤務上の配慮もある。未経験の職員も大事にするので、自信はなかったがここまで来れたという入職後1年半の職員もおられた。ステッパ(運動具)、シャワーチェア、園芸品などの物品購入の希望も叶い、楽しみが増えているという。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	そのように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症を理解する事とスキルアップのための研修を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍後の影響の為同業者との相互訪問は行っていない		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	そのように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	そのように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる作業は一緒に行い関係を構築するようにしている		

京都府 グループホームだいのじ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの面会は出来る限り行い面会ができない場合は電話で話してもらうようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	そのように努めている	家族や友人の面会や電話での交流がある。外国の家族ともLINE(無料通信手段)や国際電話で話し、帰国時には面会に来られる。息子さんが散髪に来られる方もある。ミシンを持参し、事業所の雑巾を縫われる方や、家事の得意な方の洗濯物干し、畳み、調理なども継続してもらっている。外食は制限があるが自宅での食事はできる。また、庭でブラックベリーや、花や野菜を育て、草ひきの好きな方は草を引いている。専用スピーカーでカラオケを楽しみ、熱帯魚の餌やりをする方もいる。喫煙もできる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り利用者同士が関われる雰囲気作りをしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	そのように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者からの話をもとにフロア会議にて本人本位になるように検討している	アセスメントシートの冒頭に基本情報や本人の生活歴・職歴などを記載してケアチェック表とともに主治医にも送っている。日頃の気づきや本人の言動は申し送りノートなどに記載し、ケア会議で共有している。誕生日には苺や天ぷらなど本人の好物を提供している。言葉は出るが、意味が分かりづらい方には部屋で落ち着いて話を聞いたり、行動から察するなどしている。チラシなどから要望を知ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時生活歴・生活環境等を関係者より聞き取り把握するようにしている		

京都府 グループホームだいのじ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の行動などを通して把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの希望を聞き取りフロア会議において意見交換をして介護計画に反映させるようにしている	介護計画は長期目標を1年に設定し、短期目標の終わる6か月で計画を更新し家族等の同意を得ている。6か月以内でも必要な場合はサービス担当者会議を開き、計画を変更している。しかし計画の変更前に実施するモニタリングは、計画個々の具体的な評価ではなく、おおまかな現状報告にとどまっている。また、各職員が介護計画を意識して支援に当たっているかどうかの確認ができなかった。	モニタリングは漠然と会議で振り返るのではなく、短期目標に呼応する形で個々に計画を振り返り、次の計画への足がかりとして活用されるよう期待します。また医師や看護師など他職種の関わりも計画に記載するとさらに分かり易くなるのではないのでしょうか。加えて、職員が介護計画を意識して実践しているかどうかの検証も望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	そのように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の希望には柔軟に取り組んでいるが、多機能化までには至らない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一部の地域資源は利用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を重視し個々のかかりつけ医との関係を構築している	ほとんどの方が在宅時のかかりつけ医を継続し、主治医のない方には事業所が紹介し、全利用者が訪問での診療を受けている。「訪問診療ノート」で各主治医と情報共有をしている。主治医とは24時間連絡が取れ、緊急時にも指示が受けられる。専門外来受診は家族と協力し、職員も同行している。精神科などで薬の変更がある場合は家族の判断と同意を重視している。健康管理は嘱託看護師に、褥瘡処置などは訪問看護師に依頼している。口腔ケアは普段は職員がおこなう。半年ごとの歯科健診の結果往診や通院に至る方もある。訪問マッサージの利用者もおられる。	

京都府 グループホームだいのじ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の嘱託看護師に相談指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の地域連携室を通じて、情報交換・相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望を聞き取りできる限りの支援をしている	看取りはしない方向で入所時に家族に説明している。管理者と介護支援専門員が看取りの外部研修を受けているが、看取りの指針やマニュアルは作成していない。しかし、家族の要望を受け、主治医や24時間対応の訪問看護と協働し事業所で最期を迎えた利用者もおられる。住み慣れた居室にて職員の支援と家族の見守りのもと、穏やかに最期の時を過ごされた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの訓練は年一回行う、急変時の対応マニュアルは職員に伝えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は出来ていない	昼間想定火災避難訓練をおこない、消防署の立会いのもとで職員と利用者の動きや避難路などの指導を受けている。歩ける利用者は外に避難している。次回は年度内に地震と夜間想定訓練を予定している。近隣住民に避難訓練の案内を配布したが参加はない。水害の不安のない立地で、避難所への避難は考えていない。備蓄は倉庫に4日分備え、BCP(事業継続計画)はほぼ完成している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重する声掛けを心掛けており折に触れてフロア会議において接遇に対する勉強会を行うようにしている	毎月の職員会議で絶えず介護の姿勢について振り返り、言葉かけや対応について話し合っている。上から目線の話し方はせず、丁寧すぎる言葉かけより、その方に合った声かけをするよう心がけている。排泄介助などでは扉を開けっ放しにせず、プライバシーに配慮している。	

京都府 グループホームだいのじ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を行える機会を設けるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活時間はある程度決まっているが、本人の意思を尊重するように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	そのように努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中での希望のメニューを取り入れるようにし、能力に合わせた手伝いをしてもらうようにしている	介護支援専門員が献立を立て、対面キッチンで手作りをしている。利用者の希望により、当日にメニューを変更することもよくある。近所で摘んだ菜花、菜園の夏野菜など旬の食材も献立に追加し、ブラックベリーやキンカンなどのジャムも手作りしている。重度の方には刻みやミキサー食などで対応している。職員の見守りで、包丁でジャガイモの皮をむく、ネギを刻むなどされている。洗い物や盛り付け、下膳などできる事はしてもらっている。誕生日には食べたいものを聞き献立に加えている。鍋を囲みずき焼きも楽しんだ。職員も一緒に会話しながらの楽しい食事風景を見ることができた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	そのように努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けで促しながら必要に応じた口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンをチェックしながら支援している	排泄表で本人のリズムを知り、声かけ誘導をしている。便の確認のため自立の方にはトイレに自主申告の張り紙をしている。ほとんどの方がリハビリパンツにパットを併用し、夜間巻きおむつ着用の方は1名いる。ポータブルトイレ使用の方もいる。歩行の不安な方はベッドに足元センサーを設置している。湿疹が酷かったが、排泄の声かけ誘導により汚染が減り、皮膚状態が改善された例がある。	

京都府 グループホームだいのじ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動・水分摂取の促しと排便コントロールを主治医と相談を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一定の時間帯と順番等で行っているが必要によっては応じることもあるが、人員数で難しい面もある	3日に1度位午後に入浴を設定している。汚染時にもシャワー浴で清潔を保っている。浴室は広く、重度の方は足浴とシャワー浴を併用している。お湯はオーバーフローで使用し、温度の好みにより入浴の順番を決めている。ゆず湯やしょうぶ湯など季節湯も楽しんでいる。同性介助希望の方にはなるべく希望に沿うが、現在希望者はいない。シャンプーリンスなどはそれぞれが好みの物を購入している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	そのように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	そのように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換の散歩等取り入れているが、レクリエーションの中で個々の楽しみを見出すようにしている。お酒の提供も時にはあります		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	すべてにおいては無理だが、可能な限り希望に沿うよう努めている	コロナ禍前ほど頻繁ではないが外出の機会を持つようにしている。天気の良い日は個別に近隣の公園などに出かけ、落ち着かない方に付き添って散歩や買い物にも行っている。ドライブでは季節ごとにあじさいや桜、、コスモス、紅葉などを観に柳谷観音、亀岡コスモス園などに行っている。階段昇降が難しくなった方のために昇降機を設置している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力のある方にはそのように支援している		

京都府 グループホームだいのじ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	そのように努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるよう努めている	玄関を入ると、まっすぐに伸びた廊下の片側に居室が並んでいる。反対の南側にはトイレ、キッチン、ダイニング、テレビを3つのソファで囲んだリビング、多目的スペースなどが順に並び、一目で共用空間が見渡せる。南面には窓が多くフロア全体が明るい。トイレまでの動線が長く自ずと生活リハビリになっているためか、新型コロナ罹患後も利用者の状態はあまり低下していない。キッチンの前のソファに座り、食事を作る様子を見たり、調理の音や匂いに落ち着かれる利用者もある。食事の時は職員も一緒にテーブルを囲んでいる。リビングのテレビの横には熱帯魚の水槽が並び、利用者が餌をあげて育てている。傍らの雛人形が季節を告げている。フロアの掃除は利用者も一緒におこなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人ひとり好きな場所で過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人あるいは家族の好みで家具の配置をしている	居室にはクローゼットとカーテンが備え付けられている。本人の好みの物を持ち込み自宅に近い生活が送れるようにしている。エアコンやベッドなどは以前の利用者が置いて行ったものを使用している方もいる。テレビや扇風機なども使用されている。職員の見守りのもと、愛用のミシンで雑巾などを縫う方があり、雑巾は事業所で使わせてもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごせる環境作りに努めている		